実況レポート付き

総合的な学習の時間

「社会を生きる力」の根源となる、「なぜ働くか？」を考える

立命館宇治高校（京都・私立） × 小誌編集部 共同開発授業

▶授業を行った先生方

酒井淳平先生

教員歴18年目。数学科教諭。2013年度よりキャリア教育授業（キャリア・サービス・ラーニング、以下CSL）を担当し、カリキュラムづくりから実践まで行っている。

徳地克己先生

教員歴3年目。数学科教諭。立命館宇治高校出身で、現在ともにCSLを担当する高野先生は高校時代の担任。期待のホープとして今回酒井先生とともに特別授業の1時間目を担当。

働く意義を見出すことで自分の人生を自分でつくれる人になってほしい

「働く」ことの多様な価値を高校生に感じさせたい

前ページまでは、教科において、「社会を生きる力」を育む授業を実践している先生方の事例を紹介してきた。生徒たちが将来「社会に出る」ということは、「働く」ということだ。では、働く理由については、どのような場面で考えればよいのだろう。

そこで、キャリア・サービス・ラーニング（以下CSL）という授業で「働くことについて考える」授業を実践している立命館宇治高校に協力を仰ぎ、「なぜ働くか？」を生徒たちが考える授業を設計、実践していただいた。同校の酒井淳平先生には、小誌402号にて「なぜ学ぶか？」という授業を共同開発いただき、学びの根源を考える授業として大きな反響をいただいた（※402号は『キャリアガイダンス』のHPでご覧いただけます）。

「社会を生きる力」には、自立する力、社会に貢献する力、他者と相互理解する力など、様々な力が考えられる。前ページまでに登場した先生方も生徒に育みたい力について、それぞれの想いで授業を設計している。それらの力を発揮する「社会」とは、多くの場合「働く場面」であろう。では、なぜ人は働くのか？　どんな思いで働いているのだろう？　社会人になれば個々に感じる働く意義を、高校生にどのようにしたら感じさせることができるだろう。

学びの先にある「働く意義」について考えるために、酒井先生が以前から実施している授業を汎用的に設計していただいた。立命館宇治高校でCSLを担当している4人の先生で内容を検討。特に授業のベースは、生徒たちに年齢も近い徳地克己先生が中心となり、「自分が高校生のときに、どのような授業なら働く意味について考えられたか」を意識してつくっていただいた。

「高校生はまだ働くことのイメージがありません。『収入のため』以外の価値は想像できていない生徒が多いと思います。この時期に、働くことの多様な価値に気付くことができれば、その後の学校生活が変わってくるのではないでしょうか」（徳地先生）

働く意義は、学校生活とどうつながっているか

作成いただいた指導案の抜粋を左記に、実践した授業の様子、生徒たちの反応を次ページでレポートしているので参照されたい。授業設計で難しかった点について酒井先生に伺った。

「『学ぶ』の先にある『働く』ことを『自分ごと化』させる難しさを感じました。働く意義や思いについて、様々な大人の事例を提示しながら生徒に考えさせるワークをはさんでいきましたが、それだけでは足りず、指導案を何度も何度も練り直しました」

そこで、働いている大人4人の事例について共感するものを選ばせたり、各事

学校データ　1994年創立／IBコース・IMコース・普通コース・一貫コース・文科コース・理科コース／生徒数1113人（男子538人・女子575人）／進路状況（2015年度実績）大学330人・専修その他3人、就職1人、その他8人

▶CSL担当の先生方
今回の授業をともに考案されたCSL担当の4人の先生方。左から徳地先生、キャリア教育部長の武部先生（英語科）、酒井先生、髙野先生（社会科）。

例についてグループで考えを深め合ったうえで、異なる事例の担当同士のグループで考えをプレゼンし合う、ジグソー的な活動をさせることにした。また、社会で働くことを考えさせながら、学校生活の中で自分がやりたい役割について考えるワークも行う。

「働くことの意義も思いも人それぞれです。やりがい、世の中のため、自分を表現するためなど、当然正解はありません。けれど、『働く』とは、考えれば考えるほど『生きること』に行き着く。高校生も『生きて』います。根本は一緒で、学校生活で勉強や部活、行事をする際に、いろいろな意義や思いをもっているはずです。普段は意識せずに行動していることを言語化させて、働くことと照らし合わせることまでできたらいいと思います」（酒井先生）

生徒が考えて答えを見つけるCSLの手法を教科でも

今回の授業は、1学年次にCSLの授業を経験している2学年の生徒たちに受けてもらった。多くの生徒が授業前は「働くことはお金のため」と答えていたが、授業後に大きな変化を見せていた（次ページ下段参照）。

CSL担当の先生方自身が、教科授業も含めて、生徒にどんな資質・能力を育みたいと考えているか尋ねてみた。

「言われたことだけでなく、自ら問いをたてどうすべきか考える習慣をつけたいです。数学でも『なんとなくわかった』ではなく、『なぜそうなるのか？』まで考える力を育みたいです」（徳地先生）

「ひとつの事象に対して多面的に捉えられるようになってほしいです。見え方や捉え方は自分次第で変わることを知ると、自分の軸がもてるようになると思います」（髙野阿草先生）

「生徒に育みたい力というより、CSLと教科では目立つ生徒が異なっていて、普段自分が生徒の一面しか見ていないのではと思うことが多々あります。先回りして教えるのではなく、生徒を信じ、CSLのように彼らが自分で考えて答えを見つけるのを『待つ』大切さを感じています」（武部恵子先生）

「自分の人生を自分でつくれる力を身に付けてほしいです。教科で壁にぶつかったときに、乗り越えようと自ら考える行為は人生も一緒です。それを繰り返すことで、自分にできること、やりたいことが見えてくると思います」（酒井先生）

次ページに続く

「なぜ働くか？」を考える授業の目標

1. **働くことの魅力に気付き、自分はこのように働きたいという思いをもつ。**
   - ➡「どんな職につきたいか、何がしたい？　何のため？」の文章表現の、はじめと終わりでどんな違いが出るか。
   - ➡授業アンケートで「授業が良かった」「働くことの良さ・大切さを実感した」と答える生徒の割合はどれくらいになるか。
2. **働くことは価値の提供ということに気付き、自分が提供できる（したい）価値を考える。（自分ごとにする）**
   - ➡「どんな職につきたいか、何がしたい？　何のため？」の文章表現の、はじめと終わりの違いから確認する。
   - ➡2時間目の学校生活への置き換えでの記述内容で確認。
3. **「働くことは生きること」ということから、目の前の学校生活で頑張れることに気付く。（目標をもつ）**
   - ➡感想の中で今後の学校生活の目標が具体的に書けるかどうか。

指導案（抜粋）

ダウンロード可

	内容	教員・生徒の行動
1時間目	＊今日の目標を伝える ＊なぜ働く？ どんな職につきたい？ そこで何がしたい？ それは何のため？	ワークシート（以下WS）の問いに答える 個人ワーク（1回目） まわりの仲間とシェア
	大人の働く理由を考える	スライドで提示されたアンケート結果を見る（WS記入）
	働く大人の事例から考える	スライドで、航空会社の様々な職種の事例についてクイズ形式で考える（WS記入）
	エジプトの労働者の話から仕事の意義を考える	4人の労働者の意識の違いについて考える（WS記入）
	大人の働く思いを考える	仕事に対して異なる意識をもつ3人の大人の事例から考える（WS記入）
	身近な大人の働く思いを考える	教員自身が、この仕事についた理由、働く思いについて語る
	WSの問いに答える（2回目）	「なぜ働くか？」について再度WSに記入する
2時間目	1時間目の振り返り	1時間目に気付いたことを隣の生徒とシェア（ペアワーク）
	4人の大人の仕事への思いについて、共感するものを選ぶ	資料を読んで自分の意見を決める
	誰がどの意見を深めるのか担当を決めてディスカッション	同じ事例を担当する仲間5人くらいとグループワーク
	元のグループに戻って、自分の選んだ選択肢についてプレゼンする	元のグループに戻って、ジグソー形式で順番にプレゼン
	再度選択肢を選ぶ	仲間のプレゼンによって意見が変わっているか確認
	働く意味のタネを学校生活の中に見出す	学校生活で起こりうる6つの役割から、自分のやりたいこと、できることを考える
	先生からまとめの説明を聞いて、WSの問いに答える（3回目）	「なぜ働くか？」について再度WSに記入する

※実際の指導案、ワークシートは『キャリアガイダンス』のホームページからダウンロードできます

取材・文／長島佳子　撮影／平野愛

ダウンロード可 ※ダウンロードサイト：リクルート進学総研 >> 発行メディアのご紹介 >> キャリアガイダンス（Vol.414）

「なぜ働くか？」を考える特別授業

1時間目　大人たちの働く理由を考える

1 WSの問いに答える（1回目）

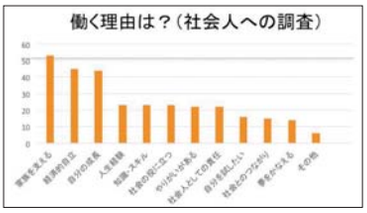
WSに書かれた下記の問いについて考えて、ディスカッション。

> 何のために働きますか？
> どんな職につきたくて（またはどのように働きたくて）、その仕事で何がしたいですか？
> それは何のためですか？

まっさらな状態での考えを書き留め、授業後の気づきとの比較対象とする。

2 大人の働く理由を考える

大人が働く理由のアンケート結果の1位を考える。



お金以外の理由で働く大人が多数いることを知る。

3 働く大人の事例から考える

航空会社の3つの現場（パイロット、キャビンアテンダント、整備）の働く大人の事例をスライドで紹介。

働くことの具体を知り、これまでの“働く”イメージが変わる。社会人になっても学び、考えることの重要性を再認識する。

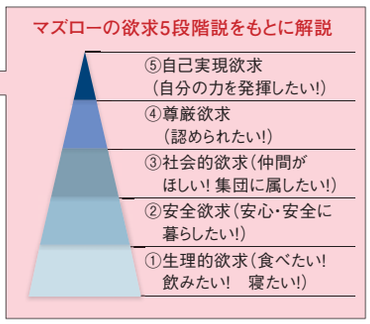
4 エジプトの労働者の話から仕事の意義を考える

この話から気付いたことをWSに記入。

> 同じ仕事をしている4人の労働者に何をしているか尋ねた。
> ●疲れきった労働者（答えなし）
> ●元気な労働者「ピラミッドを建てている」
> ●もっと元気な労働者「尊敬するファラオの墓を建てている」
> ●さらに元気な労働者「エジプトの歴史を創っている」

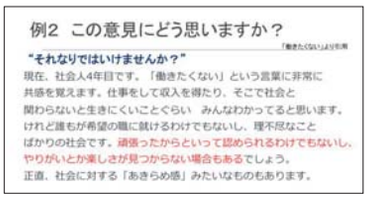
自分のやっていることの意味や意義を知ることの大切さを認識。

※③の教材は、立命館大学稲盛経営哲学研究センターと日本航空株式会社の協力による。



5 大人の働く思いを考える

「好きなことを仕事にしている人」「働きたくない人」「何事も続かなかったが、あるきっかけで仕事に意欲をもった人」の例を見る。



働くことに対する大人の思いも様々で、それぞれの背景や理由を想像させる。

6 身近な大人の働く思いを考える

徳地先生自身の仕事に対する思いを語る。

身近な先生も、実は「働く人」であることを気付かせ、視点をひろげる。

7 WSの問いに答える（2回目）

①と同じ問いに対してもう一度考える。

授業の最初に書いた答えとどう変化があるか、自ら意識する。

生徒たちは何に気付き、どう変わったか

多様な意見に揺さぶられ自分の引き出しを増やす

今回の授業では、「なぜ働くか？」について何度も同じ問いを重ねている。多様な考え方を様々な角度から生徒にぶつけ、意見の引き出しを増やさせ、自分の考え方が一面的であったことを自覚させていく。WSに書かれた生徒たちの変化の例が左記だ。最初はほとんどの生徒が、「お金（生活）のため」と回答していたが、感じた内容によってそれぞれの答えを導き出している様子がうかがえる。

生徒3の変化

【1回目】
生きていくため。
【2回目】
人と関われて、人の役に立つ仕事がしたい。
【3回目】
人の役に立って、責任もきっちりもって働きたい。そのために周りをちゃんと見たい。小さい出来事でも、大きな影響を与えることがあるので大切だと知った。

生徒1の変化

【1回目】
お金を稼ぐため。経営に関わる仕事をしたい。
【2回目】
人を幸せにするため。人の役に立つため。人々の生活が良くなるために働きたい。人に何かを感じてもらいたい。
【3回目】
人の役に立つために人を助けられる仕事がしたい。そのために適切な判断をする力や、コミュニケーション能力を身につけたい。

生徒4の変化

【1回目】
やりがいがある仕事がしたい。
【2回目】
お金だけでなく、夢を与えたり、自分を成長させるために働く。自分にしかできない仕事を見つけて自分を成長させたい。
【3回目】
自分のものの見方を変えるため。自分のやりたいことを見つけ、それを自分の成長につなげていきたい。

生徒2の変化

【1回目】
お金を稼いで不自由なく楽しく生活したい。
【2回目】
自分のやりがいのため。自分にしかできない仕事をしたい。
【3回目】
人のために働く。新しいことにチャレンジする。世話になっている両親や祖父母の力になれたらうれしい。そのために知識を豊富に、できることを増やしたい。

2時間目 「働く意味」を自分ごとにする

1 1時間目の振り返り

隣の生徒とペアになって、1時間目の気づきをシェア。

仲間の考えを聞いて、多様な考えがあることに気付く。

2 4人の大人の仕事への思いについて、共感するものを選ぶ

＊A～Dそれぞれについて、詳しい資料を読み込んで、共感できるものをひとつ選び、理由をWSに記入。

A 「日本一のパパになる」
B 「超つらいけど超楽しい」
C 「仕事をしながら専門性を磨き、価値を高める。仕事を通して社会を変える」
D 「仕事って自分を表現するもの」

多様にある仕事に対する思いに触れて、自分の志向性を顕在化させる。

3 同じ選択肢を分担した仲間とグループになってディスカッション

ジグソー法で内容を深める。②のA～Dの中で内容を深める分担を決め、同じ担当同士でグループに分かれ、各内容について意見交換する。

複数人で同じ資料を読み込み言語化し合うことで、複眼的な見方や論理的な考え方が深まる。

4 元のグループに戻って、自分が担当した選択肢についてプレゼンする

③で同じ選択肢の担当同士で共有した内容をもとに、元のグループで他の仲間に魅力を語る。

自分が担当した選択肢がなぜいいと思ったかを説明することで、仕事に対する自分の考えが浮き彫りになってくる。

5 再度選択肢を選ぶ

友達の意見を聞いて変わったか確認する。

生徒たちが選んだもの
A ⇒ 8人↑
B ⇒ 3人↓
C ⇒ 4人↑
D ⇒ 6人↑

人の価値観に触れて、自分の考えをより深める。

生徒たちが選んだもの
A ⇒ 3人
B ⇒ 15人
C ⇒ 2人
D ⇒ 2人

6 働く意味のタネを学校生活の中に見出す

学校生活の中の6つの局面から、自分のやりたいこと、できることを選んで理由をWSに記入。

今あるｋαのタネを探してみよう
～価値を提供したい場面は（働く＝価値の提供）～

以下のA～Fの中から、学校生活でやりたい経験・できる経験を選びましょう。
A「文化祭でほかのクラスに負けない小道具・大道具を作る」
B「いろいろなイベントで、予算やスケジュールをきっちり管理し、全体がスムーズに進むことに貢献」
C「クラスの思い出ＤＶＤ作成。写真撮影や編集をし、音を入れて動画に」
D「リーダーを助け、どんなときもいい雰囲気づくりにつとめる。やることがわかっていない人には教える」
E「ボランティアプロジェクトのリーダーとしてプロジェクトを進める」
F「自分たちの状況分析や他の事例との比較などをしてイベント成功に貢献」

未来のことを考えてきたが、実は目の前の現実とつながっていることを意識する。

7 先生からまとめの説明を聞いて、WSの問いに答える（3回目）

働くことと学校生活のつながりについて先生から説明。1時間目の①⑦と同じ問いに対して最後にまた考える。

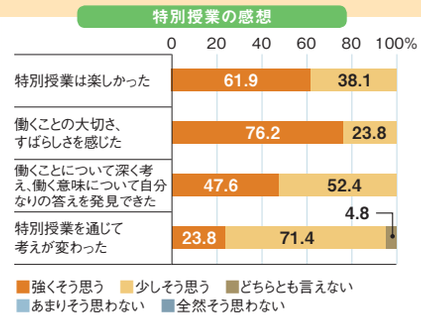
他者の事実や意見を聞きながら、同じ問いに何度も答えることで、深めた考えをまとめていく。

※授業の詳細、指導案・ワークシートは『キャリアガイダンス』のホームページに掲載されています。

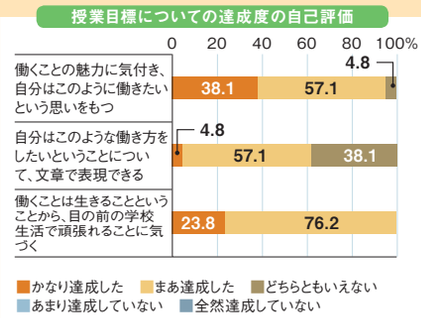
働くことの多様性に気付いた生徒たち

授業の感想について、生徒たちにアンケートに答えてもらった。否定的な選択肢を選んだ生徒はひとりもおらず、生徒たちが様々な気づきを自覚していることがわかる。ただし、自分の希望する働き方について言語化することにはまだ自信を得ていない。今回、頭や心で気付いたことを、今後の様々な学びや経験を通して言語化できるようになっていくと期待したい。

特別授業の感想



授業目標についての達成度の自己評価



この授業の感想

- 「働く＝お金をいただく」と思っていたが、「お金、人、家族、幸せ」と、多様な枝を考えるようになり、日々の行動の一つひとつにも意味と結果があると思った。
- 仕事ではつらいこともある中に「楽しさ」「やりがい」を感じて続けていることがすごい。今「頑張るクセ」をつけておいたら、社会でも活かせると思った。

この授業を通じて考え方が変わったこと

- したくない仕事でもやりがいを感じられる。
- 働く理由について「まわりの人」という言葉が出てくるようになった。
- 働くのは自分の目的もけっこう大事だということ。
- 働くことはお金を稼ぐことだけでなく、社会のためや自分の生きがいと捉えることもできること。